

「令和7・8年度に実施する高等専門学校機関別認証評価に関する
自己評価担当者等に対する追補研修会」（令和7年2月実施）におけるQ&A

【全般】

Q 1. 後任への持続的な伝承のためにも、研修のときだけではなく日頃からチェックできるようにA4等でポイント・注意事項を確認できる資料を頂きたい。

A 1. 今回の追補研修会の資料に記載した「成績評価や単位認定の客観性、厳格性を担保するための組織的な措置」や「同一試験問題に関する考え方等」については、改めて高等専門学校機関別認証評価委員会での内容を決定し、今後、各高等専門学校に周知予定です。

【観点4-5-①】

Q 2. 学校教育法施行規則の一部改正に伴う入学者選抜について、「試験問題、解答または解答例および出題意図は、原則として公表すべきである」と規定されている。しかし、本校の推薦選抜は面接のみで実施される。この場合、面接内容等についても公表が必要か。

A 2. 面接は「試験問題」ではありませんので、面接内容については公表不要です。

ただし、面接で口頭試問を行う場合、口頭試問は試験問題と見なすことができますので、原則として公表されると考えます。

Q 3. 入学者選抜試験について（資料p.44）「試験問題と解答（解答例）、出題意図を公開する必要がある」とのことだが、推薦試験（書類選考の場合や、面接+調査書等の場合）は不要、という認識でよいでしょうか。また、出願がなかった場合（例えば編入試験）は公開の必要がない、ということでしょうか。

A 3. 推薦入試の場合、書類選考のみの場合は公表不要ですが、面接で口頭試問を行う場合はA2のとおり原則として公表されると考えます。また、出願がなかった入学者選抜にかかる試験問題と解答または解答例および出題意図の公表は不要です。

【観点5-1-①】

Q 4. 資料p.16の説明で、教育目標とDPの整合について例示されているものはあまり整合していないと言っていたが、どこがどうダメでどう直すべきかを示していただきたい。そのような具体的な解説とともに、整合性を考える上での原則等があれば併せてご教授いただきたい。

A 4. p.16で示した「CP・DP一覧表」において、例えば、本科共通における教育目標が

1. 技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する。
2. 創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する。
3. 専門的基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する。
4. 広い視野と倫理観を備えた人材を育成する。

としているところ、DPでは上記下線の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定することとなっていないため、「あまり整合していない」例として紹介しました。

従って、教育目標の中にどのような能力を持った人材を育成するかを記載するならば、DPには、学生が卒業時に身に付けるものとしてその能力が記載されていることが、整合性を取るうえで必要と考えます。

【観点5-6-③】

Q 5. 動画そのものは良かったと思うが、例えば、学生への答案の返却が必要とする意図や、その論拠を別途で構わないので示してほしい。大学改革支援・学位授与機構では当然のことと思っているかもしれないが、それが伝わっていないから対応できていないケースがあるので、納得できる説明をしてほしい。

A 5. 学生一人一人がDPを達成できるようにする観点から、答案の返却をすることで学生が自分の答案及び成績評価結果を確認し、今後の学習計画の作成や復習等による学修成果の向上に役立てられることが、答案返却が必要な理由です。

このことについては、A 1 で記載した各高等専門学校に対して周知予定の文書にも記載いたします。

Q 6. 「答案の返却」をしなければならないとあるが、これは必ず答案の原本でなければならないのか。(学生が答案を書き換えて成績の修正を求めてきた事例がある。)

A 6. 基本的には、原本を学生に返却し、コピーあるいはPDFを学校側が保管することを想定していますが、学校として答案の返却及び保管のルールを適切に定めるならば、必ずしも原本を返却する必要はありません。

Q 7. 試験答案の返却について(資料p. 24)「答案返却時に採点確認を行った後、再度、答案を回収することのないこと」とあるが、一方で、成績評価のエビデンスとして試験答案を保管することが必要とされていると認識している。また、レベルや過去の問題との重複を確認するために、試験答案の事後チェックが必要となる。ということは、試験答案を採点後には、全答案をコピー若しくはPDF化しなければならない(その後で返却する)ということか。また、その場合、返却時に採点のミスが明らかになった答案については、それを一旦回収してコピー(またはPDF化)し直してから学生に戻す必要があるということか。

A 7. ご認識のとおり、採点確認を行った後、答案をコピーまたはPDF化して保管する必要があります。学生に答案を返却後に採点ミスが明らかになった場合についても、ご認識のとおり、答案を一旦回収し、採点ミスを修正した答案をコピーまたはPDF化してください。

Q 8. 同一問題とみなされる問題の例について。例えば英語検定教科書は各パートに「正しく書ける」べき英文が盛り込まれている。再試験では同じ英文を書かせる(あるいは語群を正しく並べる問題を出題する)ことが同一問題とみなされることからできなくなる。結果として覚えるべき文法項目が定着しているか測り辛く、しかしながら他の知識を問う問題で問題数を補うわけにもいかない。受験者に不公平感が生じるからである。

また、例題では3つの解答が可能であり、受験者に達成感を与えられる設問とならないと思われるがそれであっても出題可能であるのか指示が必要と思われる。

A 8. 文法を問う問題において、英文を書かせる、あるいは英単語を並び替える問題であっても、別の英文または英単語に変更すれば、同一試験問題とは見なされませんので、学生の知識定着が確認できるような作問の工夫をお願いします。

また、資料に示した例題は同一試験問題と判断する事例をわかりやすく紹介したもので、実際に試験問題とする際は、ご指摘のとおり、学生が一つの解を導けるものとしてください。

Q 9. 同一試験問題に対する考え方に関して、「問題文や選択肢の順序が変更されているが本質的に変わらない場合などの判断」や、「選択肢の順番が入れ替わっているだけ場合」などを人間がチェックを行うのは、開講科目数などから考えても大変です。AIなどを利用してチェックできる体制を機構として提供していただくことは有り得るでしょうか。

A 9. 認証評価機関である当機構が、教育機関に対し同一試験問題のチェック機能を提供することはありませんので、各校における教育の内部質保証の一環として、各校においてチェック体制を構築いただきますようお願いいたします。

Q10. 同一問題の事例について、計算問題など、数値を変えて到達度合いを問う方法しかできない分野もあるため、柔軟に判断いただきたい。

A10. 出題するすべての問題を異なるものにしなければならないとの説明はしていません。同一問題を出題することは妨げませんが、その割合には一定の制限（※）があると考えており、また、到達度確認のために試験問題の全問について数値だけを変えざるを得ない科目があるとも考えられません。p. 27～p. 28に示したように、同一試験問題か個別の判断を要する事例があることは承知していますので、こうした事例を踏まえて同一試験問題か否かを判断することとなります。

※試験問題全体の80%以上が同一と認められる場合は、同一試験問題が出題されていたと判断されます。
(追補研修会資料p. 29参照)

Q11. 同一試験問題の基準や定義がまだ曖昧なままなので、基準や定義を一覧表や箇条書き等ではっきり示していただけると助かる。

A11. A 1に同じ。

Q12. 同一試験問題の使用を避けるべきと考える基本的な考え方を説明していただきたい。

A12. 同一試験問題を使用すると、過去の試験問題を入手可能な学生と入手な困難な学生との間に不公平が生じ、成績が学生の実力ではなく、学生間の情報格差によって左右される状況が生じることになります。機関別認証評価における現役学生の意見聴取において、こうした不公平に対する改善を求める意見があります。

また、同一試験問題が繰り返されると、学生は単に過去問の暗記に頼るようになり、深い理解や応用力を養う機会が失われます。本来、試験とはその科目の中で理解すべきことのうち、どの程度理解し、応用力を身につけているかを判断するために行うものであるため、パターンの暗記や過去問対策に偏った学習とならないようにすべきです。

このことから、同一試験問題について機関別認証評価では一定の制限（A10参照）を設けているものの、当該制限は、80%未満であれば同一試験問題を使用しても問題ないという趣旨ではありませんので、同一試験問題の使用はできるだけ少なくするよう作問の工夫をお願いします。

以上